

日時：平成31年3月14日（木）20：00～

場所：ふれあい歯科ごとう

出席者（敬称略）：五島、豊田、森尾、齊藤

（新宿区で薬剤+栄養の問題を抽出）100例を設定

1. ICFをベースに項目分：ICFの項目を使用すると、健康状態としてズレるの
ではないか。結果にどう影響するかなので、ICFを「参考に」「基にして」として～だから
食べられない（因子）に性別はいらぬのではないか。

*項目の吟味と削除を行った。活動、参加を環境と一括りにしても良いか。

→このまま調査はできないため、項目をまとめる。わかりづらいところの説明。

（その場で聞き取りしなくともよい、思い起こしてでもよし）

骨子ができたので、重複などの項目を2/3程度にそぐ。

健康状態と身体機能→健康関連

個人因子→個性、活動→生活動作に関連する、

活動：本人がやっていること、本人ができること（できないことでもサービスが充実し
ていればカバーできるか）要説明

*恐怖：精神疾患、精神的ストレス：身体機能のところの恐怖は削除

（各項目についての検討）

在宅医療を受けている、ケアマネジャーが関連していること

薬剤との関連を抽出する

新食研のWGで行っていること、管理栄養士からの視点を入れたいが

2. 新食研×薬剤師×栄養士で冊子（リーフレット）：今回保留→次回に

A) 薬剤師が栄養の意識を持たなければならない理由

B) 患者さんが栄養の意識を持ってもらう

① 薬剤師に読んでもらうもの。

なぜ薬剤師が栄養の事を知らなければならないのか。

→カード状の（チェック）リストをセットとして？意識づけ

*章立てする

② 患者さんに意識して欲しい栄養の事

→パンフレット、小冊子

薬局情報提供できるツールを作る。1. 2を分離して進行

次回、この会「齊坊主ウイング（仮）」4月25日（木）20：00～